

# 医療・介護関係者の研修

## 在宅医療・介護連携推進事業 多職種連携研修

- 開催日時 令和4年9月14日(水) 13:30~17:00  
Zoomによるオンライン研修(講演形式)
- 参加人数 49名(市内事業所を中心として、医療・介護関係機関に開催通知を送付)
- \*医療職  
医師、歯科医師、看護師、薬剤師、柔道整復師、社会福祉士、  
医療ソーシャルワーカーの方々にご参加いただきました。
  - \*介護職  
主任介護支援専門員、介護支援専門員、介護士、介護福祉士、ケアワーカー、  
訪問介護員、施設管理者、生活相談員の方々にご参加いただきました。
- 内容
1. エンド・オブ・ライフ・ケアにおける多職種チームアプローチ  
土浦協同病院 緩和ケア認定看護師 釜崎久美子 氏
  2. 在宅での看取り支援の実際  
土浦協同病院 厚生連土浦訪問看護ステーション 玉主祥子 氏
  3. 救急要請の仕方とDNARについて  
かずみがうら市消防本部 警防課 立花秀男 氏



おわりに

- 介護の終了のゴールはいつやってくるかわかりません。  
家族の心残りを軽減するためにも『家族とともにケアをすること』そしてそれが家族へのケアにつながります。  
**『日々、丁寧に繰り返し提供されるケア』にこそ価値がある!!**
- 『その人らしく生きること』『その人にとっての最善』を利用者や家族と共に考え、寄り添うことが大切です。  
**利用者の人生の1ページに参加できることに感謝しよう!!**

**not doing but being**  
何かをすることではなく、そばに  
(シシリー・ソングス)

**DNAR (Do Not Attempt Resuscitation)**

▶ 定義  
尊厳死の概念に相通じるもので、末期癌、老衰、救命の可能性のない患者などで、本人または家族の希望で心肺蘇生をおこなわないこと

現時点で心肺停止や搬送中に心肺停止になった場合に、特に高齢者の場合は搬送先の医療機関からDNARはあるのかどうか救急隊に確認しなさいと指示があります。  
家族を確認してDNARの意思や書類等があった場合に、救急隊は死亡診断ができません。だからといって搬送中止することはできませんので、最低限の処置(心肺蘇生)を実施しながら搬送し、病院到着後に医師の死亡診断を受けることになります。  
救命のために出場する救急隊としては矛盾した活動になります。

